

CONTENTS

- キラリ輝く奥州人
- 広報紙で振り返る奥州市の10年
- 【特集】
一市高齢者福祉計画・第6期
介護保険事業計画を策定—
安心長寿のまち おう
しゅうを目指して
- 奥州市の将来像を考える
地域自治区制度の失効と
これからのまちづくり
- 春の「叙勲・褒章」「危険業務
従事者叙勲」受章者の紹介
- 全国の舞台で活躍
- 組織力強化向上プログラ
ム研修を開催します
- 姉妹都市 掛川だより
- 百歳おめでとう
市任期付職員を募集します
- 奥州の春まつり グラフ①
- ILC希望のひかり
- 市政ズームイン
- まちの話題
- 夢トーク
青春讃歌
- 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 子そだて広場
子そだて行事予定
- 情報あらかると
- 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市

キラリ輝く
奥州人
19
夢に向かって自分で
選択できる力を育てる

菊池 桃子さん（39歳）
〓 江刺区玉里字玉崎 〓



学年に合わせた役割を持たせ練習を進めていく



きくち・ももこ◎昭和50年、江刺区玉里生まれ。同区で左官工事の仲介業「カプリスデザイン」を営む。玉里ミニバスのコーチを経て、ことしからドリームイーストの指導に参加。家族は両親と愛犬1匹

体育館に流れるテンポの良い音楽に合わせて、子どもたちが準備運動を始める。江刺区のミニバスケットボールチーム「ドリームイースト」の練習風景。菊池桃子さんがアシスタントコーチとして始めたことの1つだ。

バスケ一家の次女として生まれ、両親の勧めで強豪校の盛岡白百合学園高校に進学。しかし、3年時に体調を崩し、アシスタントマネジャーに転向して後輩の指導に当たった。この時、指導の楽しさとやりがいを感じたという。

専門学校時代もジムでトレーナーのバイトをしていたが、企業に就職してからは仕事の毎日。25歳の時に帰郷した後も、運動からは距離を置いたままだった。そんな中、知人からミニバスのコーチに誘われたことが転機になった。

現在は、基礎技術を指導しながら精神面もサポート。「バスケで主体性や協調性を培って欲しい。教えるというより一緒に成長していく——」と語る桃子さんは、日々成長を続ける子どもたちを笑顔で応援し続ける。

〈今月の表紙〉



日高火防祭（同実行委員会など主催）が4月28日、29日の2日間開催されました。

人々の目をひときわ引いていたのは、各町組によるはやし屋台。豪華絢爛な屋台を一目見ようと、沿道には大勢の観客が詰め掛け、太鼓を演奏する「お人形さん」の姿に「かわいい」と声が上がっていました。

写真は、屋台に「火」の字を掲げる柳町組。9町組の中でいちばんの大きさを誇る屋台は、見る者を圧倒するような厳かさで水沢の街を練り歩きました。

【関連記事：14～15ページ】

広報紙で振り返る

奥州市の10年

第2回（2007年版）

水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の5市町村が、平成18年2月20日に合併して誕生した本市は、28年2月20日で丸10年となります。その節目を迎える本年度は、これまで広報紙に掲載した主な出来事を、皆さんに毎月お知らせしていきます。

■問い合わせ〓本庁政策企画課広聴広係係（内線419）

市民憲章と市の花鳥木を制定

新市誕生から丸1年が経過した19年2月20日。プラザイン水沢を会場に「奥州市誕生1周年記念式典」を開催しました。式典では、誕生からの1年間を振り返るとともに、

生誕150年の節目に
記念事業を挙行

満鉄初代総裁、帝都復興院総裁などを歴任し、各分野で高い功績を残した後藤新平。その生誕150年を記念して10月21日、市文化会館（Zホール）を会場に「後藤新平



後藤新平の生涯を追った
広報おうしゅう2007年11月号の特集記事

生誕150年記念シンポジウム」が開催されました。

松田昌士JR東日本相談役による基調講演のほか、パネルディスカッションが行われ、約700人の来場者は、新平の多彩な生涯と人柄を振り返り、治績をたえました。

10年の節目を迎える
市民に聞く――



菊地 正芳さん（36）

profile

きくち・まさよし◎昭和54年、江刺区岩谷堂生まれ。結婚を機に父から酪農経営を引き継ぎ、農業経営者として10年目を迎えた。今後は乳製品の加工販売や野菜生産なども展望。妻と5歳になる愛娘の3人家族

この10年は、飼料の高騰や口蹄疫の流行、東日本大震災など、酪農家として試練の連続でした。震災時は、牛乳を出荷できず廃棄した時期もありましたし、原発事故の影響で自家産の飼料を食べさせることができず苦労しました。除染して放牧できるようになるまで、3年掛かりました。合併は「時代の流れ」なんだろうと、当時も今も反対す

る気持ちは全くありません。むしろ、合併して人の交流が広がりました。さまざまな業種の人と出会えましたし、世代を超えた交流も活発になっていると感じます。

奥州市は、農業をするのに気候や土地など条件が良い。また、若い農業者が多く、とても魅力があると思います。若い人たちがもっと働きやすいまちになって欲しいですね。

年月日	合併2年目の主な出来事
19. 2. 20	市誕生1周年記念式典を挙行 市民憲章・市の花鳥木を制定
3. 12	市総合計画を策定
3. 14	市男女共同参画推進条例を制定
4. 1	軽自動車税のコンビニ収納をスタート 空き家バンク事業をスタート
4. 12	奥州エフエムが開局
6. 1	市小児夜間診療所を開設
6. 4	市内2カ所目の幼保一体化施設「あゆみ園」が落成
6. 25	岩手江刺農業協同組合から寄贈された市の花鳥木モザイクレリーフを市役所本庁1階市民ホールに設置
8. 23	えさしわいわいテレビが開局
8. 29	水沢中央ライオンズクラブから寄贈された市民憲章碑を市役所本庁正面玄関前に建立
9. 3	健康福祉部内に市子育て総合支援センターを設置
10. 7～14	国際姉妹都市オーストラリアのグレーターシェパートン市へ合併後初の公式訪問
10. 21	後藤新平生誕150年記念シンポジウムを開催
10. 26	前沢区の後藤久次さんが全国肉用牛枝肉共励会で最優秀賞を受賞
11. 1	奥州大使事業をスタート
11. 18	前沢温泉舞鶴の湯が入館者200万人達成
12. 20	奥州市民のうたを制定
1. 27	奥州市民☆文士劇が江刺体育文化会館（ささらホール）で初公演



市の花鳥木モザイクレリーフと市民憲章碑